

「CHANEL」

2024・5・10 校長 重枝一郎

本校初代校長のジェニー・ギール先生は、「本校は女性の新しい生き方を見つけられる学校」と言い、本校のDNAになっています。私も、3年前に本校に来て、そのDNAを実感する学校風土が今も息づいていると感じました。そしてこれからも大切にしたいと思っています。そんな時、ある一冊の本と出会いました。それは「CHANEL～ココ・シャネルの言葉～（山口路子著）」という本です。

「ガブリエル・シャネル」について書かれた本です。「ガブリエル・シャネル」はココという愛称で知られ、今も多くの人たちに支持されるファッションデザイナーです。

ココ・シャネルは、貧しい子ども時代を経て、「シャネル帝国」と呼ばれる一大ブランドを築き上げました。一度56歳で引退したのですが、71歳の時、「私は退屈よりも大失敗を選ぶ」と言ってカムバックし、87歳で亡くなるまで、再び第一線で活躍しました。

本の中でココ・シャネルは、「欠点こそ魅力」と話しています。「欠点は魅力の一つとなるのに、みんな隠すことばかりを考えている。欠点をうまく使いこなせばいいのに。これさえうまくいけば、なんだって可能になる」と、女性の心意気を感じるような話をしています。

以前、私が、漫画「スラムダンク」の話をしたのをおぼえていますか。作者の井上氏に対して、読者が、「こんな魅力的なキャラクターをつくれた秘訣を知りたい」と質問し、井上氏は、「それは一人一人にはっきりと弱点をもたせる」と回答したという話です。人の魅力について、共通した考え方を感しました。

人の魅力ってなんだろう？

それは、「自分はどうかありたいか」という“Being”に関係していると思います。自分のあり方、生き方が、その人の魅力になるのではないかと思います。

みなさんは「どんな人になりたいですか？」と尋ねられたら何と答えますか？

ココ・シャネルは、「かけがえのない人間になりたい」と答えたそうです。また、「誰とも似ていない」とか「他の人と同じことをするのが嫌い」とも話しています。こういう“Being”が、ココ・シャネルの強烈な魅力になっていたのかもしれませんが。

私たちの福岡女学院中高のシンボルワードである「大切なひとり」にも同じような意味があります。この「大切なひとり」は、「自分は大切なひとりなんだ」という認識をもち、自己存在意義を高める意味になります。シャネルの「欠点こそ魅力」、スラムダンクの「弱点をもたせる」、そして、自分のあり方の“Being”、私たちのシンボルワードである「大切なひとり」、すべてつながっているように思います。

だからみなさん、学校生活の中で意識しよう。お互いを尊重し、個性や学習知を活かし合える関係を。みなさん、意識しよう。誰もがリーダーシップを発揮していくことを。つまり「Love&Leadership」を。

以前、礼拝の時、本校英語科の先生であり、みなさんの先輩でもある井上先生が、こんなことをおっしゃっていました。「あなたたちは、大きな世界の小さな存在ではなくて、大きな世界の大きな存在である」と。みなさんは「大切なひとり」なのです。